

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立高倉小学校

4月22日に、本校6年生102名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や生き方に関わる質問調査も実施されており、その結果の概要等、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語・算数)

国語A・B、算数A・Bの本校平均は、全国平均や京都府平均より大きく上回っていました。特に国語Bや算数Bで自分の考え方を記述する問題の平均正答率は著しく上回っていました。又、無解答率は極めて低く、最後まであきらめることなく取り組むことができています。

国語科A・Bより

全体的によくできています。**国語A・Bの全ての問題で、全国や京都府の平均を大きく上回っています。**

特に国語Bの「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く」問題(3三)では、正答率は全国(京都府)平均と比較すると20ポイント以上高い(無解答率は、約15～20ポイントも低い)結果でした。

また、国語Bの「書くこと」の平均正答率も全国(京都府)平均よりも20ポイント近く上回っていました。

それは、読解力の育成を重視し、日常の授業でも自分の考えを記述する場面を低学年の段階から意図的に授業の中で確保するように努めていることの成果が表れていると考えています。

学習したことを文字
に書いて自分で書き
まとめることは大事
だね！



算数科A・Bより

全体的によくできています。**算数A・Bのほとんどの問題で、全国や京都府の平均を大きく上回っています。**

特に算数Bの「示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述する」問題5(3)では、正答率は全国(京都府)平均と比較すると20ポイント以上高い(無解答率は約6～10ポイント低い)結果でした。

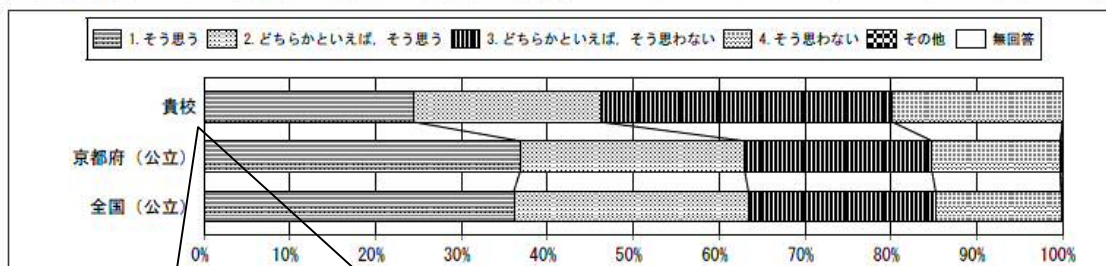
それは、低学年の段階から四則計算の習熟に偏ることなく、言葉以外にも、式や図、絵、表、グラフ等を使って自分の考えを整理したり、考え方を説明したりすることを日常の授業の中に取り入れるよう努めていることの成果が表れていると考えています。

言葉だけでなく、数や式、図、
表、グラフ等を用いて表現する
ことが大切なんだ！

児童質問紙調査より①

質問（46） 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	24.5	21.7	34.0	19.8					0.0	0.0
京都府（公立）	36.8	26.2	21.8	14.9					0.1	0.1
全国（公立）	36.1	27.3	21.8	14.6					0.1	0.1

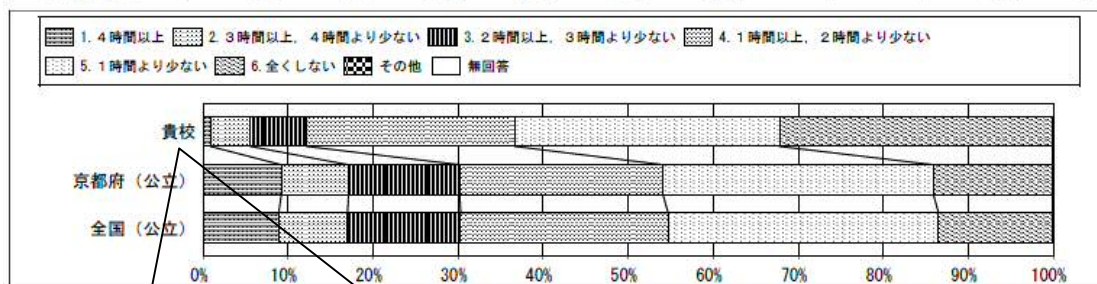


この質問結果から感想文や説明文を書くことが難しいと思わない児童の割合が、全国（京都府）平均よりも高いことが分かります。他の質問の結果からも自分の考えを説明したり、話し合い活動を通して自分の考えを深めたりできているととらえている児童の割合も高いです。

児童質問紙調査より②

質問（12） 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	0.9	4.7	6.6	24.5	31.1	32.1			0.0	0.0
京都府（公立）	9.2	7.9	13.1	23.9	31.8	14.0			0.1	0.0
全国（公立）	8.9	8.1	13.3	24.4	31.8	13.4			0.1	0.0



この質問からは、普段「2時間以上テレビゲームをする」児童が12.2%と全国平均よりも約18ポイント低い結果となっています。また、他の質問結果からは「学校の授業時間以外に学習する時間が長い」ことが読み取れます。

家庭の協力もあって、「テレビやゲームに多くの時間を使うことなく、勉強する習慣が身についている」児童が多いととらえています。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「よりよい生き方を求めて、誇りをもち、未来にはばたく 高倉の子」を学校教育目標とし、「豊かに学び、表現し、高め合う姿」を目指して、保護者や地域の皆様の協力を得ながら、教職員一丸となって取組を進めています。

各教科等の指導にあたっては、児童に「思考力」「判断力」「表現力」等を育むことが重要であり、児童にも次のようなことを伝えています。

「一生懸命人の話を聞く」「自分の考えを持つ」「思ったことを発表する」「友達と意見を交流する」「ノートやプリントにしっかりまとめる」「宿題を丁寧にやってくる」「忘れ物をしない」等

これらの地道な積み重ねが、児童が「生きる力」をつけていくことにつながると考えています。

国語A・B、算数A・Bの結果（平均正答率）は全国や京都府の平均と比較すると、大きく上回っていました。特に、「書くこと」の力が身につけられている児童が多いととらえられます。また、最後まであきらめずに何とか答えようとする姿もその結果から見られました。

児童質問紙調査からも「**家庭での学習時間（特に予習の時間）が多い**」「**テレビ視聴やテレビゲームに費やす時間が少ない**」「**原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことを難しいと思わない**」「**新聞をよく読む**」という傾向も見られました。家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の結果でもあると考えます。

ただ、「**人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか**」の質問では、「当てはまる」と答えた児童は67.9%でした。これは全国・京都府平均（共に74.1%）と比較すると課題であると言わざるをえません。また、「**『総合的な学習の時間』の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役立つと思いますか**」等の回答結果からも、まだ育てきれていない面が見えてきています。

本校では、いろいろな人や事柄に出会って勉強しながら、いろいろな物の見方や考え方があり、こんな人になりたいという夢をしっかりと持てるような取組を進めていきたいと思っています。授業や学校行事の充実の他にも、スマイル21プラン委員会での活動や土曜学習等も含め、様々な体験を行う機会を設けていきたいと考えています。

保護者の皆様へ



全国学力・学習状況調査は子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を争うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。

今後も子どもたちの健やかな育ちと学びの環境作りにご協力をお願い致します。